

公開講座Ⅱ テーマ

いのちをつなぐ～地域でのあたたかな看取りに向けて～

1. 日時および開催場所

令和 6 年 12月 14日(土) 15時00分～17時00分

開催場所：福岡県立大学大講義室

2. 内容および講師

講演およびディスカッション

講 師 國森康弘氏 (写真家/ジャーナリスト)

【略歴】写真家、ジャーナリスト

京都大経済学研究科修士号、英カーディフ大ジャーナリズム学部修士号。新聞記者を経てイラク戦争を機に独立。紛争地や経済困窮地域を回り、国内では戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被災者取材。命の有限性と継承性がテーマ。看取り、在宅医療、地域包括ケアの撮影にも注力。

最新刊に『写真と言葉で刻む 生老病死 そして生』(農文協、2020年)。また医療的ケアが必要な子どもたちを写した写真集『笑顔をありがとう』(サンライズ出版、2021年)を出版、学校や病院等600ヵ所に寄贈。

写真絵本『いのちつぐ「みとりびと」』(農文協、全12巻)の第1巻で2012年度けんぶち絵本の里大賞および小学6年道德教科書(光村図書)に掲載中。『ご飯が食べられなくなったらどうしますか?』(農文協、共著、2017年生協総研賞受賞)、『アンネのバラ～40年間つないできた平和のバトン』(講談社)は中学2年道德教科書(光村図書)に掲載、『家族を看取る』(平凡社)、『証言 沖縄戦の日本兵』(岩波書店)、『TSUNAMI3・11: 東日本大震災記録写真集』(第三書館、共著)、『子ども・平和・未来 21世紀の紛争』(岩崎書店、共著全5巻)など。2011年度上野彦馬賞グランプリ、ナショナルジオ国際写真コンテスト2009日本版優秀賞など受賞。

NHKの「おはよう日本」「ハートネットTV」「ラジオ深夜便」、TBS「Nスタ」などに出演。放送倫理・番組向上機構(BPO)放送人権委員会委員。

3. 対象：田川市民、在宅医療福祉関連専門職(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、PTOTST, MSW, 栄養士、ケアマネージャー、医療機関等事務職)

4. ご講演前の講師からのメッセージ

農村地帯や大都市部、被災地でご縁を頂いた数々のご家族たちの「看取り」と、それを支える地域医療、地域包括ケア、「地域まるごとケア」について、たくさんの写真を通じてみていきます。

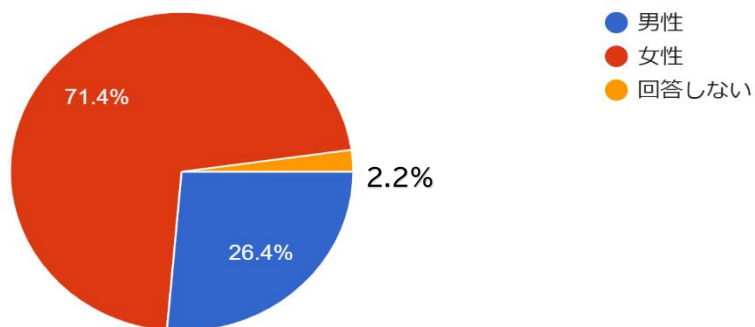
感謝や別れを大切な人たちと交わしながら、命をまっとうする。そんな「看取り」の場には悲しみや辛さだけでなく、時には、生き切ったという充足感、生き抜いてきた生命力を感じることがありました。死は単なる終わりではなく、命をつなぐ壮大なバトンリレーの一舞台だと教えて頂いた気がします。命は有限であり、だからこそみんなで受け継ぎ継承していくもの、と。「生老病死」を、我々は暮らしから遠ざけ過ぎたのかもしれない。いくつかの調査では2, 3割の子どもが「命はリセットできる」「死んでも生き返る」と考えていたそうです。「犬がほしい。デパートで買ってきて」、「カブトムシが動かなくなっちゃった、電池切れなの?」、「人を刺したらどうなるか知りたくて、刺してみた」……。地域の真ん中で、尊厳を失うことなく、自分らしく、歳を重ねて、生き切る――。そんな「天寿まっとう」がどの地域でも実現され、個として総体として、のちの世代に「いのち」をつないでいけたら、と願っています。

5. アンケート結果

参加者 120 名のうち **91 名から回答を得ました**（回収率 75.8%、）

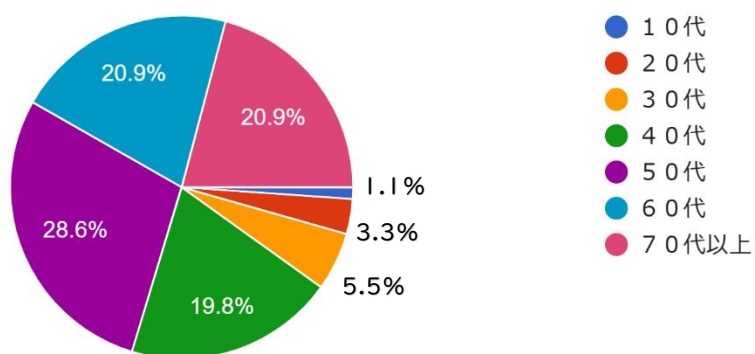
問1 あなたの性別についてお尋ねいたします

91 件の回答



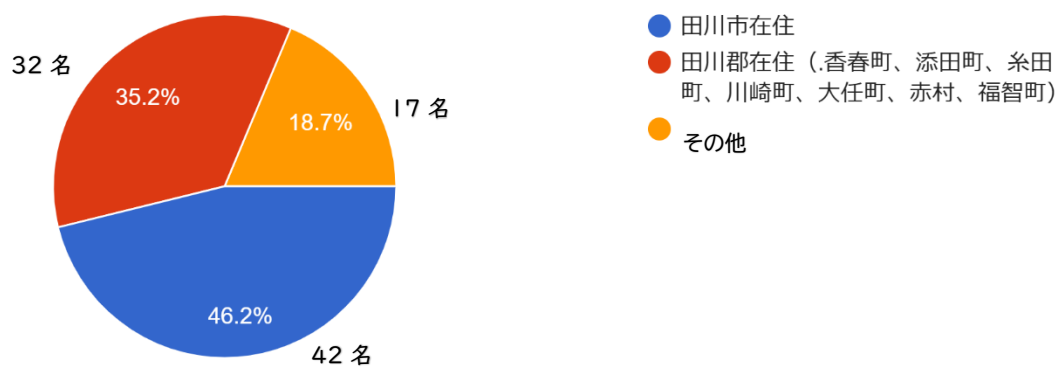
問2 あなたの年代についてお尋ねします

91 件の回答



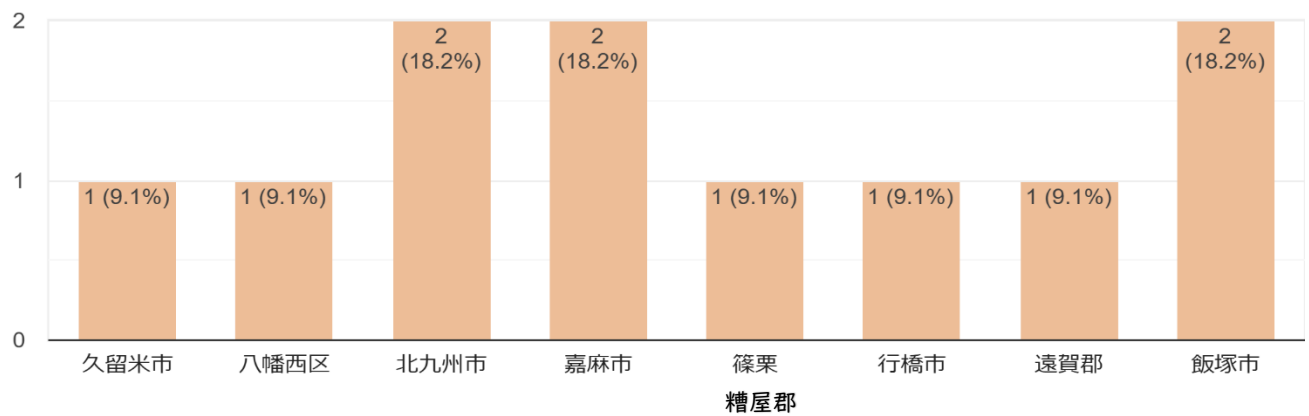
問3 あなたは、田川市在住ですか

91 件の回答



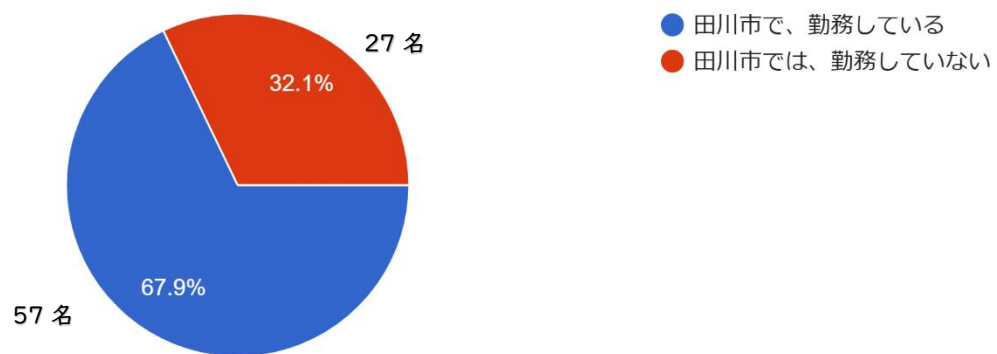
問3で「その他」を選んだ方の記入欄

11件の回答



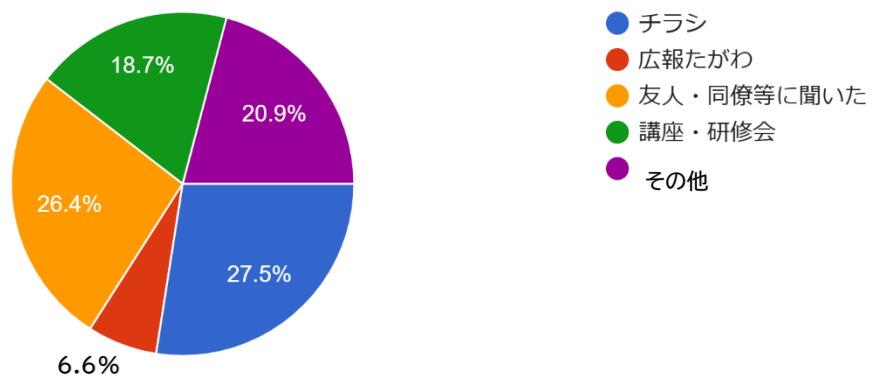
問4 あなたは、田川市で勤務されていますか

84件の回答



問5 今回の研修をどこで知りましたか

91件の回答

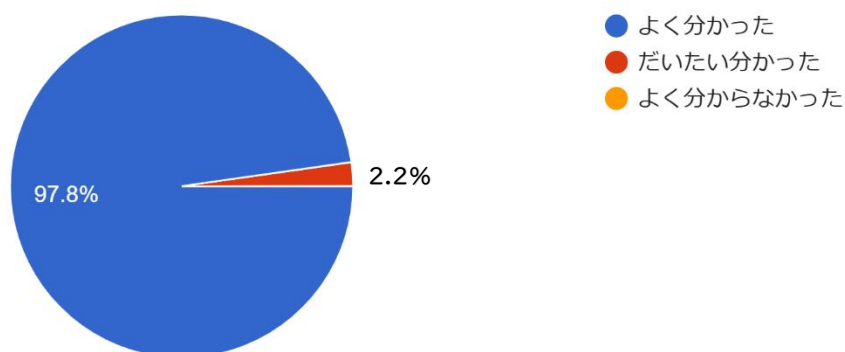


問5で「その他」を選んだ方の記入欄 18 件の回答

- ・ コアメンバー
- ・ 知人からの紹介
- ・ 福岡県立大学の中で、パンフレットを配布しているコーナーで知りました。
- ・ 「NPO 法人むゆうげん」の紹介
- ・ 関係者
- ・ 事業所
- ・ LINE（田川市発信）
- ・ 田川市の LINE
- ・ 理事会

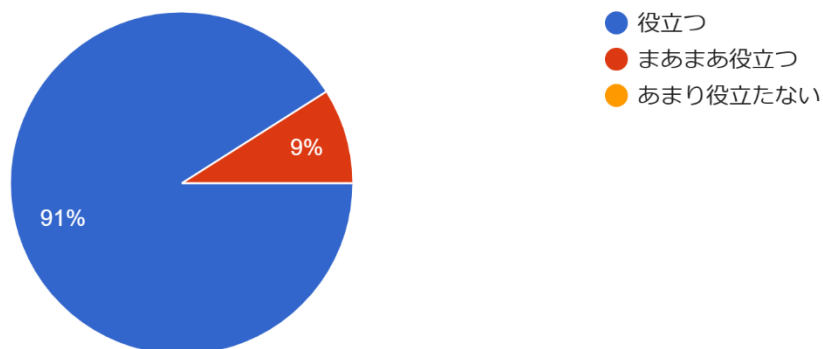
問6 本日の講演について理解できましたか

89 件の回答



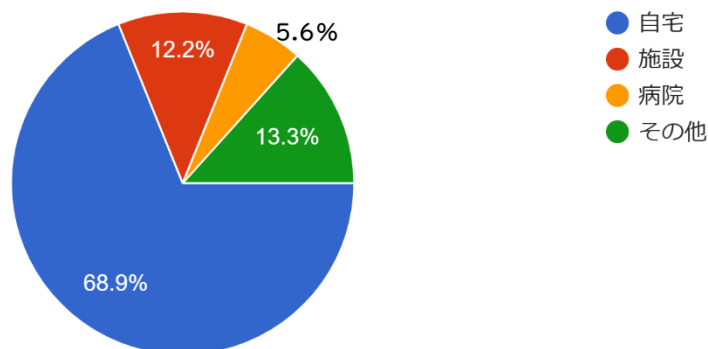
問7 今回の講演の内容は、今後あなたの生活や仕事等に役立ちますか

89 件の回答



問 8 講演を聞いて、あなたはどこで最期を過ごしたいと感じましたか

90 件の回答

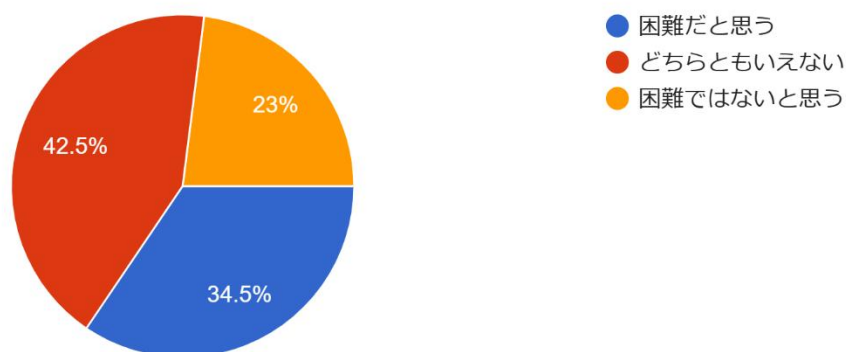


問 8 で「その他」を選んだ方の記入欄 12 件の回答

- ・ナーシングホーム
- ・家族等が希望する場所
- ・まだわからない
- ・グループホスピス（子どもと一緒に見たい。グループで家族以外の人と交流して老後を楽しく過ごしたい）
- ・その時に応じます。
- ・わからない
- ・生と死は自分で選べない
- ・その時の身体状態、状況にて、わからない。
- ・自宅と言いたいのですが、一人暮らしなので無理でしょう。
- ・今はわからない。自分が少しでも役に立つところで、自分のため、人のために少しでも役立てる場所を選択し、楽しく生きがいのある場所を最期の場所にしたい。家族を悲しませたいので笑顔で過ごせる場所。
- ・その時の状況にもよると思うため、今回の講演を参考にしたいと思います。
- ・今はわかりません。

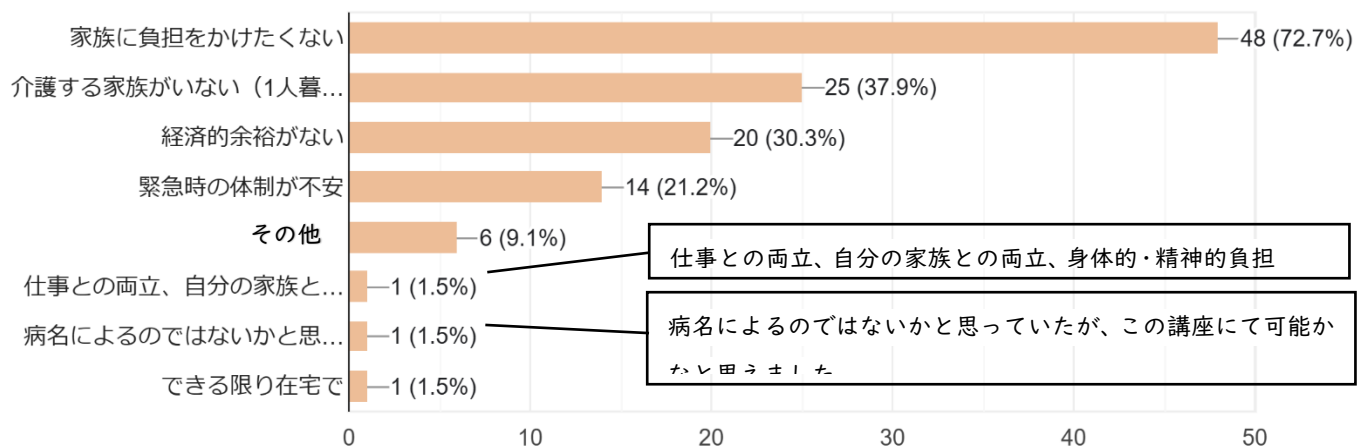
問 9 あなた自身または家族を、在宅で看取ることについて困難だと思いますか

87 件の回答



問9で「困難だと思う」、「どちらともいえない」を選んだ方、それはなぜだと思いますか（複数回答可）

66件の回答



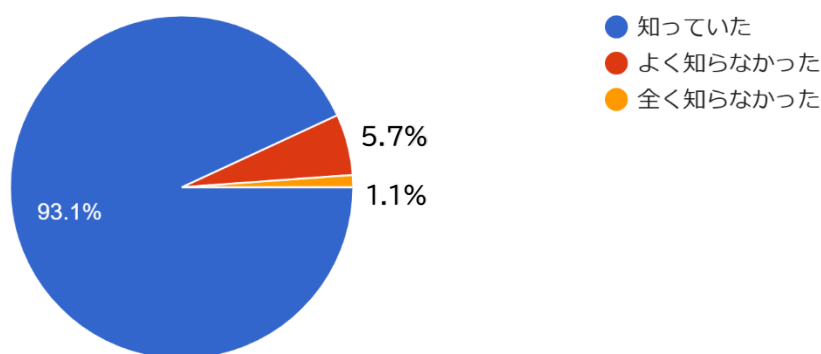
問9 講演後の自由回答

- ・住居環境。介護保険の住宅改修では、全く補えない。子供達が遠方で暮らしているため、先の見えない介護は負担が大きい。
- ・色々な問題はあっても一緒に解決できる方法を探したいと思います。
- ・最期は自宅で過ごしたいと思いますが、子どもがいないため介護してくれる人がいない。
- ・家で死にたいけれども、不安であるけれども、子どもたちに伝えていきたい。
- ・多職種が連携してしっかり対応できれば可能です。在宅医の存在と本人や家族のACPが重要だと思います
- ・まだ実感がない
- ・困難ではあるが、選択出来る地域にしたい。
- ・自宅だと慣れない家族介護で、本人もきついと思う。
- ・今は夫と二人暮らし。これから子どもと同居する予定もないので、自分たちのこれからを、まだ家族と話をしていない。自分たちで出来る間はしっかり生きていきたいが、できなくなってからのことを子どもと話していきたいです。まずは健康寿命を延ばして、しっかり生きたいです。
- ・子どもに大変な思いをさせたくない
- ・経済的な面で不安はありますが、入院や施設でも同じ事なので大丈夫かなと思いました。死は安らかでありたいと思います。
- ・在宅で看取りたいと皆が思ったのなら、困難ではなくなると思う。どうにかできる！しかし、皆が不幸になるのならしないほうがよいと思う。
- ・親を看る場合、自分は仕事をしているため、どこまでやれるかが分からないので。自分が看取ってもらう場合、子どもが遠方に居るため自宅で過ごすのは難しいと思う。できる限り家で過ごし、最期は施設。施設でも講演の内容の様な施設であれば、施設も良いかなと思いました。
- ・看取りの時だけでなく、それまでの医療や介護、家族の体制が整っていることが必要だと思います。
- ・家族が見るべきという雰囲気にしたくない。どこで過ごすかを選べる環境を作りたい。
- ・人に迷惑をかけたくない。選択されるほうは難しい。
- ・その時の年齢や状況による
- ・最期は、条件が揃えば自宅だと思う。しかし、子ども達は仕事があり難しいのではないかなと思う。先

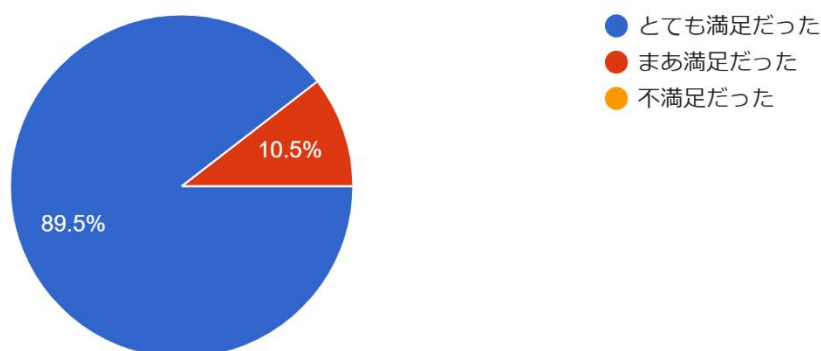
においては、施設に入所して子どもには迷惑をかけないようにしたいと考えている。

・地域の体制も大きいと感じる。看取りを行える医療体制（訪問診療、訪問看護など）がその地域にあるか否かで、状況は変わってくるのではないのでしょうか。あとは病院勤務の医療スタッフの認識。数年前まで療養型病棟に勤務していましたが、看取りのために退院するというケースは稀有でした。病院スタッフから提案はしない、そもそも家族が希望しないケースも多く...といったところでした。看取りに対する意識に対するパラダイムシフトがどうすれば起きるのか、正解がない点なので難しいですね。

問10 在宅での医療や介護の相談先として、地域包括支援センターがあることを知っていますか
87 件の回答



問11 今回の公開講座Ⅱ（ケア・カフェたがわ）は、満足でしたか
86 件の回答



問12 今回の公開講座Ⅱ（ケア・カフェたがわ）のご感想や、今後希望される講演内容・テーマについて

・施設の充実。看護する人が充実して仕事ができる環境。
・写真だけで伝えることが出来ることに驚きました。また写真だけだからこそ、家族や関わりを持たれた方々の思いを自身で考えることができました。ありがとうございます。在宅看取りで困難だったこと、それに向けてどのように動かれたのかがわかる研修もして欲しいです。
・長年在宅看取りを生業としてきました。共感できる点も多く、また状況により理想に向かえず現実を受け入れなければならない場面もありました。行政によっては役所、保健所、ケアマネジャー、ケースワー

カー、訪問介護、福祉用具、訪問看護ステーション等が会議を開催し、認知症・独居・癌末期寝たきりの高齢者をご自宅で看取ることができました。どのような場面に於いても多職種連携の必要性を感じています。患者様ファーストが、いつの間にか介護者ファーストやサービス提供者ファーストにならないように努めたいと思います。

・地域包括支援センターには、とてもすてきな方が多く、田川市民にとって頼りになる存在だと思えます。

・先生ありがとうございました。

・「いのちをつなぐ」というテーマは、もっとしていく必要を感じます。ありがとうございました。

・映像を通して看取りを考えることに大変感動しました。皆さんの笑顔が本当に自然で素敵でした。

・様々な家族の形がある中、このようなあたたかい家族の形もあるのだと思いました。家族だけでなく、他人でもボランティア等で支援している方々に支えられて、支えられているだけでなく与えている関係。心が温まりました。声を抑えるのに必死でした、ありがとうございました。

・「おばあちゃん、ありがとう」と言ってもらえるおばあちゃんになろう！

・周囲の理解と協力 地域社会の交流、老後を考える認識も（健康な身体・動ける・歩ける身体を作っているのも必要ですが）必要かなと思います。

・本当に、映像を見ながらお年寄りのたくさんの笑顔が見られて勇気をいただきました。國森先生をはじめお世話くださった皆様、ありがとうございました。多様な考え方、生き方がある中、自分が自分の幸せのために何を選択するのか考えていきたいです。

・最近、実家で父を看取りました。今日参加して色々考えさせられました。そんなに悪くなかったんだなと。

・子どもの現状を知りたい。貧困・ヤングケアラーについて 自分の死に装束が決まりました。

・開催にあたりご尽力された皆様お疲れ様でした。今回のケアカフェを高齢者の方々に案内すると看取りに対してネガティブな印象を持っている方がおられました。まだまだ、市民の目線として看取りのステージは今の生活や人生から連続しているものであることとして捉える事が難しい現状もあると感じています。

・生きること、死ぬことを考えることが出来る講演でした。人は一人では生きていけないけど、血のつながりはなくても支えられる関われるのだと。独りでも自分らしい死に方が出来る社会作り。東日本大震災の写真を見て、生きることについて考えることが出来ました。

・私自身は両親と主人の3人を同時に看護しました。大変でしたが、弟・妹達に感謝されましたし、自分も良かったと満足しています。父は90歳、母は95歳で亡くなりました。

・昨年母を看取りました。その時を振り返りながら聴いておりました。たくさんの写真で一つ一つにエピソードが詰まっており、非常に感動しました。いろいろな人に聴いてもらいたかったです。ありがとうございました。

・命をつなぐ講座、非常に役に立ちました。また、介護等講座がありましたら連絡（LINE）をお願いします。

・今日の講演会で、とても優しい気持ちになることができました。ありがとうございます。

・7年前も涙が止まりませんでした。今回も素敵な写真と共に人のつながり、地域や医師、専門職が顔の見える関係を築き支援をする事で安心して死を迎える事が出来たらいいなと思います。地域や専門職として、今からでも出来ることがあればして行きたいと思います。いのちをつなぐ意味をあらためて感じた講演でした。とても良かったです。

・とても良かったです。家で過ごしたい方の手助けができるようにしていきたいです。

・心に響く講演会をありがとうございました。 家族をどうみていきたいか自分自身がどう生きていきたいか、考える機会となりました。

・認知症についてのテーマを希望します。

・最期に関わる立場として、本人と家族の望む形を作れるようにしたいと思いました。

・毎日忙しい日々で慌ただしく過ごしていましたが、毎日があること、日々の暮らしがとても幸せであることを改めて実感することができました。家族との日々を大切に過ごそうと思いました。

・話の内容はすごく自分にとって、これからの生き方ですごくいい為になりました。

・本当の大変さは家族にしか分からないので、家族の話を聞いて助けられるような環境がもっとあっても良いのでは・・・と思う。

・心がかよった介護、支援者の一方通行の関係で業務を行っていると思いました。支援者が同じ気持ちを持って考えていきたいと思います。

・先祖がたくさんいることも改めて思った。いのちのバトンリレー・・・そうだなあと思った。動物・植物、生きているものみんなですね。引っかかったこと・・・「たくさんのおじいちゃん、おばあちゃん（先祖）がいた」との言葉は、赤ちゃんから若くてピチピチからおじいちゃん、おばあちゃんになる。その言葉は、なんかずっとおじいちゃん、おばあちゃんだったみたいで、私だったら嫌でした。なんの表現がいいかな・・・。 遠くから、ご講演ありがとうございました。

・まだ先のことだと思って、なかなか考えたり家族と話す機会やタイミングを作ろうとはしなかったの
で、今日の講演をきっかけに話してみたいと思いました。ありがとうございました。

・最期を過ごすのは自宅が望ましいが、家族がいないので無理だと思う。

・誰しも迎える死について現実的な問題もありますが、亡くなっていく本人、またまわりの家族も大変ですが、できれば家族や私自身にしてもまわりに支えていけるような生き方をしたいと思いました。ありがとうございました。

・人と人とのつながり、命の尊さについて改めて考える機会となりました。

・とても感動し色々と考えさせられました。ありがとうございました。

・お看取りは色々なその方自身やご家族の背景だったりとても簡単だとは言いにくく難しい問題ではあると思います。しかし、色々な地域の繋がりや他職種、制度などを活用しその方の尊厳を失わずにその方らしく最期を迎えることができればとても幸せなことです。 写真を通してお言葉を聴き私ももっとできることはないか考えさせられました。今日という1日を大切に生き一生懸命仕事に向き合い頑張っていこうと思いました。ありがとうございました。

・ことばの力、音楽のちからについて。音楽療法や読書によるQRLの向上について。

・実際に在宅看取りを多く行っている地域の取り組みなどを、ごく一部ですが垣間見ることができたと思います。今の世の中で満足の行く生活をするのはなかなか難しいと思います。そんな中でも、こういった地域の方々と協力することにより、一人一人の人生の最期に少しでもよかったと思えるような場所を提供できるようになりたいと思いました。 写真の力ってすごいと深く思いました。

・心に響くお話をありがとうございました。 母が脳梗塞で倒れ看取りの状態となり、間もなく（あと2～3週間）息を引き取るとされます。今は病院にありますが、最期は家で看取る予定です。家族で見送り見送りたいと思います。

・看取りの写真や説明を聞いて、自宅で家族や関わってくださる方に看取られる方は幸せだなと感じました。 私自身、母ががんで60歳で他界、病院で死にました。今の自分の歳で、改めて若かったなあ、もう少し長生きしてもらいたかったなあと思いながら拝見しました。今日はありがとうございました。

・自分も還暦を過ぎ、今後の事を考える機会が増えました。 そんな中でこの講座を受け参考になりました。

た。 残された人生をどの様にして過ごすか・・・過ごしたいのか・・・自分で考え、家族と話したいと思っています。